



平成26年6月20日

各 位

会 社 名 OSJBホールディングス株式会社  
代 表 者 代表取締役社長 井 岡 隆 雄  
コード番号 5912 東証第一部  
問 合 せ 先 企画総務室長 神 谷 保  
電 話 番 号 03-6220-0601  
URL <http://www.osjb.co.jp/>

### 中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社グループは、平成27年3月期を初年度とし、平成29年3月期までの3ヵ年を対象とした中期経営計画を策定しましたのでお知らせいたします。

当社グループの主要事業分野である公共投資関連の市場におきましては、復興関連予算の執行や東京オリンピックの開催決定により事業量が回復傾向にあり、当面はその傾向が持続する見通しです。一方、労働者不足による労務費を中心とした建設コストの高騰は、工事採算に大きく影響を与える可能性があり、また、当社グループがその多くを依存している橋梁業界におきましても、企業間の受注獲得競争は非常に厳しい状況が続いております。

このような状況におきまして、当社グループは平成23年12月の日本橋梁株式会社とオリエンタル白石株式会社の経営統合後、橋梁上部工（プレストレストコンクリート橋・鋼橋）、橋梁下部工、基礎工、及び維持補修工の幅広い分野を網羅する「橋梁の総合建設会社」としての強みを活かすべく、入札競争力強化、受注拡大、施工・技術向上、コスト削減といった事業シナジーの推進に努めてまいりました。

平成27年3月期は前回策定した中期経営計画の2年目であり、本来、計画継続期間ではありますが、本年4月1日に当社グループが純粋持株会社体制へ移行し、事業環境が変化したことから、この度、中期経営計画を新たに策定することといたしました。

本計画において平成29年3月期の計画最終年度までに目指す、基本方針、数値目標、事業戦略は下記の通りであります。

#### 1. 基本方針

- ① 「橋梁の総合建設会社グループ」として、上部工（プレストレストコンクリート橋・鋼橋）/下部工/基礎工/維持補修工の幅広い分野を網羅する強みを持った橋梁事業の強化とともに、ニューマチックケーソン事業、建築事業での安定収益確保を図る
- ② オリエンタル白石・日本橋梁間の事業シナジーの更なる推進、コスト削減策の実行により、収益性や財務体質の強化を図る

#### 2. 数値目標

平成29年3月期 売上高：440億円 経常利益：13億円（経常利益率3.0%）

#### 3. 事業戦略

- ① 橋梁事業（新設橋梁・維持補修）の更なる強化
- ② ニューマチックケーソン事業、建築事業での安定収益確保
- ③ オリエンタル白石・日本橋梁間の更なる事業シナジーの推進
- ④ 更なるコスト削減・財務改善

当社グループは、全社を挙げて本中期経営計画を推進していく所存であります。株主様をはじめとするステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上

# 中期経営計画

2014年 6月20日



OSJBホールディングス株式会社

# 1. 経営計画の骨子

## (1) 計画の骨子

- ① 「橋梁の総合建設会社グループ」として、上部工(プレストレストコンクリート橋・鋼橋)/下部工/基礎工/維持補修工の幅広い分野を網羅する強みを持った橋梁事業の強化とともに、ニューマチックケーソン事業、建築事業での安定収益確保を図る
- ② オリエンタル白石・日本橋梁間の事業シナジーの更なる推進、コスト削減策の実行により、収益性や財務体質の強化を図る

## (2) 計画のポイント(事業戦略)

- ①橋梁事業(新設橋梁・維持補修)の更なる強化
- ②ニューマチックケーソン事業、建築事業での安定収益確保
- ③オリエンタル白石・日本橋梁間の更なる事業シナジーの推進
- ④更なるコスト削減・財務改善

## (3) 数値目標

- ✓ H29/3期: 売上高 440億円、経常利益 13億円、経常利益率 3.0%

## 2. 数値目標

### 【今回計画数値と前回計画数値及びその差異】

(百万円)

	前回中期経営計画(H25/2月)				実績	今回中期経営計画(見直し)				差異			
	H26/3期	H27/3期	H28/3期	H29/3期		H26/3期	H27/3期	H28/3期	H29/3期	H26/3期	H27/3期	H28/3期	H29/3期
受注高	37,600	39,100	39,400	—	47,360	41,800	42,200	43,700	9,760	2,700	2,800	—	
建設	32,300	33,600	33,900	—	38,325	36,500	36,400	37,600	6,025	2,900	2,500	—	
鋼構造物	5,300	5,500	5,500	—	9,035	5,300	5,800	6,100	3,735	▲ 200	300	—	
売上高	44,100	39,200	41,400	—	42,401	43,000	44,400	44,200	▲ 1,699	3,800	3,000	—	
建設	37,300	33,000	35,500	—	37,071	36,000	37,100	36,800	▲ 229	3,000	1,600	—	
鋼構造物	6,800	6,200	5,900	—	5,330	7,000	7,300	7,400	▲ 1,470	800	1,400	—	
売上総利益	3,700	3,200	3,800	—	4,102	4,300	4,300	4,500	402	1,100	500	—	
(売上総利益率)	8.3%	8.2%	9.2%	—	9.7%	10.0%	9.7%	10.1%	1.4%	1.8%	0.5%	—	
営業利益	900	500	1,100	—	1,204	1,350	1,300	1,400	304	850	200	—	
(営業利益率)	2.1%	1.4%	2.6%	—	2.8%	3.1%	2.9%	3.2%	0.7%	1.7%	0.3%	—	
経常利益	800	500	1,000	—	1,209	1,300	1,200	1,300	409	800	200	—	
(経常利益率)	1.9%	1.2%	2.5%	—	2.9%	3.0%	2.7%	3.0%	1.0%	1.8%	0.2%	—	

建設 : オリエントタル白石、タイコー技建  
 鋼構造物: 日本橋梁

# 3. 事業戦略①

## ① 橋梁事業の更なる強化、ニューマチックケーソン事業・建築事業での安定収益確保

### 【基本方針】

- ✓ 「橋梁の総合建設会社グループ」として、上部工(プレストレストコンクリート橋・鋼橋)/下部工/基礎工/維持補修工の幅広い分野を網羅する強みを持った橋梁事業を中心に事業強化を図る
- ✓ ニューマチックケーソン・建築事業での一定の受注量・安定収益確保を図る

### 【主要施策】

- ✓ 橋梁事業を中心とした事業強化  
オリエンタル白石・日本橋梁合同での事業推進
- ✓ ニューマチックケーソン事業での安定収益確保  
橋梁下部の他、ポンプ場・貯留槽等の受注強化
- ✓ 建築事業での安定収益確保  
耐震補強事業、プレキャスト建築事業の更なる推進

### 橋梁事業

- 新設橋梁・維持補修の両面で事業強化
- 維持補修においては、SSP、STEP、SLJスラブ等、特化工法の技術営業を推進

### ニューマチックケーソン事業

- 橋梁下部の他、ポンプ場・貯留槽等における事業強化
- 同時に、スリムケーソン、無人ケーソン、大深度工法等に続く新技術開発強化

### 建築事業

- 耐震補強事業、プレキャスト建築事業の更なる事業推進
- 倉庫や物流センターといった、当社技術の優位性を活かせる分野の受注強化

### 3. 事業戦略②

#### ②オリエンタル白石・日本橋梁間の更なる事業シナジー推進

##### 【基本方針】

- ✓ 営業面、施工・技術面、コスト面での事業シナジーの更なる推進
- ✓ 耐震補強や維持補修等での受注拡大に努めると共に、施工・技術面やコスト面での事業シナジーを推進

##### 【主要施策】

- ✓ 営業面  
耐震補強や維持補修等の受注競争力強化
- ✓ 施工・技術面  
共同調達、使用部材内製化、新技術の共同開発
- ✓ コスト面  
重複コストの削減

##### 営業面

- 維持補修分野の受注強化
- 双方の実績・ノウハウを相互活用した、技術提案力の強化
- 既存取引先の相互活用

##### 施工・技術面

- 積極的な情報交換・交流を通じた技術・ノウハウの相互利用
- 保有設備や遊休人員の効率的な稼働を推進
- 新技術の共同開発

##### コスト面

- オリエンタル白石・日本橋梁間の管理業務の効率化や資金調達の効率化を通じて、コスト削減を推進